

2009



2009 平成21年 みんなの力で

新たな横浜が動き出します

150th Anniversary of the Opening of the Port of Yokohama

YOKOHAMA

横浜開港150周年～市政120周年～
基本計画



「横浜海岸通之図」(横浜市中央図書館所蔵)

横浜市長 中田 宏



1859年、横浜は前年に締結された日米修好通商条約に基づいて開港しました。

2009年は開港の年から数えてちょうど150周年にあたります。

その当時、「むかし思えば とま屋の煙 ちりりほらりと立てりしところ」と「横浜市歌(森鷗外作詞)」にうたわれる、戸数100戸ほどの寒村であった横浜は、開港を契機に日本近代化の原点の地として飛躍的に発展し、2002年にはFIFAワールドカップ™の決勝戦も行われるなど、現在では国際的にも知名度の高い、人口360万人を有する日本第2の都市に成長しました。

大きな節目となる2009年を迎えるにあたり、昨年、「港と先人の業績への感謝及び賞賛」などの5つの契機の実現をとおり、「チャンスあふれるまち 横浜」を創造することをめざす、『横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン』を策定しました。

それから1年。その基本ビジョンの具体化に向け、多くの市民が「横浜が好き」で「横浜に住んでよかった」と感じ、市外からは「住んでみたい」「訪れてみたい」と思われる、そんな魅力と活力にあふれる「チャンスあふれるまち 横浜」を実現するために、様々な記念事業を、『横浜開港150周年～市政120周年～基本計画』としてとりまとめ、発表することとなりました。

2009年まであと3年。横浜市民が一丸となって開港150周年を祝い、これを契機に先人の業績に感謝し、また、未来の横浜がより夢と希望があふれるまちとなるよう、この基本計画の実現を図りながら、一緒に盛り上げていきましょう。

平成18年6月2日

1 「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」策定趣旨	3
2 基本計画	
まち・みなど	5
(1) 横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト	
ひと	9
(2) 市民力・地域力発揮プロジェクト	9
(3) 次世代育成・人材育成プロジェクト	11
祝祭	
(4) 「横浜開港“ハッピーバースデー”」プロジェクト	13
開港150周年に向けて国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取り組み ～サミット誘致 ほか～	15
3 お寄せいただいた市民意見	17
4 参考資料 横浜開港150年の歴史～横浜発展史～	19
5 チャンスあふれるまち横浜の創造に向けて	21



(横浜名所) 棧橋の景 View of Pier, Yokohama <1900年代初頭の大きな橋> (横浜中央図書館所蔵)

「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」 策定趣旨

昨年、2009年に迎える、開港150周年・市政120周年を、「港と先人の業績への感謝及び賞賛の契機」など5つの契機の実現をとおして、「チャンスあふれるまち 横浜」の創造をめざすことを目的とした、「横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン」を策定しました。

横浜には、先人たちの努力などにより、独創性や先取性、開放性、チャレンジ精神といった、これまで培われてきた「横浜ならではの」「横浜らしさ」といった気風やそこから生まれた様々なオリジナリティにあふれるものがあります。今回、発表した「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」は、こうした「横浜ならではの」といったものの価値を再認識するとともに、そのよさをこれからの横浜の発展や成長に活かしながら、「チャンスあふれるまち 横浜」の創造に向け、踏み出していこうとすることを計画策定の原点にしています。

本年1月に発表した、「中間とりまとめ」では、記念事業全体を「ひと」「まち・みなと」「祝祭」といった視点から整理し、3つのプロジェクトとしてまとめ、記念事業の方向性と主要な事業について提案しました。

そして、この「中間とりまとめ」に対して、お寄せいただいた市民の皆様からの意見やアイデアを参考にしながら、記念事業にふさわしいものを新たに加えるとともに、ひとづくりを重視する観点から、次世代や地域の人材育成に関する取り組みを打ち出すなど、4つのプロジェクトにボリュームアップして、発表しました。

今回、発表したプロジェクトの中には、枠組みを示しているだけで、中身が十分に具体化されていないものもあります。「基本ビジョン」では、「民が主役」という考え方を打ち出しましたが、こうした考えを大切にしながら、これらについては、今後、市民や市民活動団体など、多くの民の力と協働しながら、具体化していきます。

開港150周年の趣旨に賛同して、市民や事業者など多くの民の力によって、これから、大きな盛り上がりの波を創ろうとするもの、これを契機に社会への貢献や未来づくりに向けた、試みを行おうとするものなど、個性的で多様な記念事業や記念イベントの展開の動きを、横浜市は引き続き、強力に応援していきます。また、今後も、新たな記念事業が動きだしていくよう取り組みを進めていきます。

このように記念事業にふさわしい取り組みや事業といったものは、2009年に向け、これからも次々と生まれてきます。こうした観点に立てば、この計画の中身は、これからも発展・成長していきます。今回の発表は、最終ゴールではなく途中経過と考えています。

また、大切なことは、この計画の根底に流れているスピリッツとも言うべき部分を大切にすることだと考えています。それぞれの事業は時期が来れば完了したり、あるいは見直されたりしていきますが、われわれが開港150周年でめざしたものは、次世代に引き継がれ、横浜の精神として、魂として連綿と生き続けていくことを期待しています。

《5つの契機》

港と先人の業績への感謝及び賞賛の契機

市民であることの一体感を醸成する契機

次世代の横浜が夢や希望にあふれるまちであるための礎をつくり、再発展を図る契機

「横浜らしさ・横浜ならではの」へのこだわりと創造の契機

集客力を高める絶好の契機

(要約)



横浜の新たな顔づくり・まちづくり 推進プロジェクト

まち
み
な
と

これまで蓄積されてきた横浜ならではの歴史的財産を活かしながら、21世紀の新たな横浜の魅力づくりを進めていきます。みなとまちとして生まれ、発展してきた横浜の持つ個性をいっそう磨いていくため、横浜港発祥の地の再整備や文化芸術の持つ創造性を活かした都市づくりなどを進めていきます。

また、次世代の横浜再発展に向け、全市的な視点からその基盤となるようなまちづくりも同時に進めていきます。

《新たな顔づくり・【文化芸術創造都市形成】》

横浜港発祥の地である象の鼻地区の整備推進により、横浜ならではの空間を演出し、新たな港の顔、市民の憩いの場、交流の場としていきます。

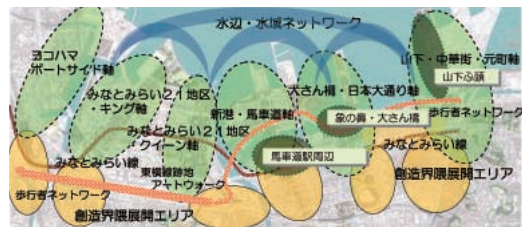
また、文化芸術による創造性あふれるまちづくりをめざし、都心臨海部を中心として、開港都市としての歴史や文化などの資源を活かし、国際的な文化芸術・観光交流ゾーンや創造界隈の形成、映像文化産業など創造的産業の集積に向けた取り組みを進めていきます。



撮影：森日出夫



象の鼻地区再整備イメージ図



ナショナルアートパーク構想エリア



象の鼻地区再整備

開港150周年を記念する象徴的な事業として、横浜港発祥の地である「象の鼻地区」を横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的空間として再整備するとともに、同地区を中心に、大さん橋や赤レンガ倉庫によって形成されるエリア一体を、横浜を代表する国際的な文化観光交流ゾーンの一つとして、また、ナショナルアートパーク構想の拠点地区として、創造的な機能の集積を図ります。

安政6年(1859年)の横浜港開港にあたり東波止場と西波止場の二本の直線状の波止場が造られました。その後、慶応3年(1867年)に東波止場は湾曲した形に変更され、その形状から「象の鼻」と呼ばれるようになりました。

ナショナルアートパーク

横浜を象徴する港や歴史的な景観など開港都市としての資源を活かして、文化芸術など創造的な活動が活発に行われるとともに、観光交流拠点として多くの来街者が訪れる魅力的な都心臨海部を形成します。

創造界隈

「馬車道」「日本大通り」「野毛・桜木町」の3地区を先導的地区として、歴史的建造物や倉庫、空きオフィスなどの地域資源を活用し、アーティストやクリエイターが創作・発表・滞在しやすい創造的空間を整えます。



撮影：森日出夫

県立新ホール整備

山下町地区において、開港150周年に向け、賑わいの創出や文化芸術の創造発信などの観点から、「神奈川の顔としてふさわしい拠点づくり」を目指して、県立新ホールとNHK横浜新放送会館を中心とした整備が行われます。



横浜トリエンナーレ

文化芸術創造都市・横浜の形成に向けたリーディング事業として、日本最大規模の国際現代美術展である横浜トリエンナーレを継続的に開催し、横浜の先進性や先端的な文化芸術を世界に向けて発信します。

映像文化都市形成

今後成長が期待される映像・コンテンツ産業をはじめとした創造的産業を都心臨海部に集積し、様々なアーティストやクリエイターが交流することにより、特に成長の著しいアジアにおける映像コンテンツの市場を形成するなど、経済の新たな活力を生み出します。併せて、民間主催の映像イベントなどの支援を図るとともに、日中韓の3国共同による150周年記念映画を制作し、横浜から魅力ある映像文化を発信します。



横浜の新たな顔づくり・まちづくり 推進プロジェクト

〈まちづくり〉

マリインタワー再整備

開港100年を記念して建設され、現在でも市民に広く親しまれているマリインタワーの保存、活用を図り、開港150周年に向け横浜のシンボルとして再生します。

新横浜駅・周辺地区整備

新横浜駅及び北口周辺地区では首都圏南西部の玄関口にふさわしい広域的な交通拠点の形成に向け、東海道新幹線のぞみ・ひかり対応型駅舎への改良や駅ビル整備に併せ、交通広場や駅北口の歩行者デッキの整備など駅周辺の整備を図るとともに、開港150周年に向けて、業務、商業、文化、スポーツ施設などの多様な都市機能の集積を促進し都心部のいっそうの賑わいを図ります。

羽田空港の再国際化

アジアとの人的・物的交流のいっそうの活発化に向け、開港150周年の2009年に完成を目標とする羽田空港再拡張事業が円滑に進むよう、国や他都県市と取り組むとともに、羽田空港の再国際化の範囲が東アジアの主要都市をカバーするなど、国際化をよりいっそう推進します。

企業立地の促進

開港150周年の2009年3月までの時限的的制度である、企業立地促進条例による国内最高クラスの支援措置を効果的に活用し、新規企業誘致や既存企業のいっそうの立地促進を図り、市民雇用の増大など横浜経済の活性化につなげます。

市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

開港150周年を契機に、市内米軍施設の返還が促進されるよう引き続き国に要請します。また、市民の皆様の見解などを踏まえながら、公園・緑地などや、広域防災拠点として跡地利用の具体化を進めます。



新横浜駅ビル完成予想図
この図は完成予想図であり、実際とは異なる可能性があります



提供：県・横浜・川崎空港対策研究協議会



市民力・地域力発揮プロジェクト

このページの中身は、市民の皆様とともに、今後、さらに具体化していきます。

子どもから高齢者まで、また市民活動団体や企業など、多くの市民がその力を発揮しながら、150周年を記念して行う音楽やスポーツ、環境、福祉活動などメッセージ力のある多様な「イベント・プロジェクト」を展開していく動きを、横浜市は積極的に応援していきます。

また、市民レベルの国際交流支援、市内各地域の歴史や風土、個性を活かした地域への愛着を深めることができる取り組みも、市民とともに進めていきます。

このプロジェクトは、文字どおり市民の力や地域の力の発揮によって、具体化していきたいと考えています。ここで取り上げたイベントなどは、例示的な提案として記載しました。今後、これ以外のものについても、市民や地域とのキャッチボールによって、具体化していきます。

スポーツ・音楽・アート系イベントの展開

野球やサッカー、マラソンなど多くのスポーツやクラシックからロックまで幅広いジャンルの音楽、多様なアートなどに多くの市民が参加し、楽しめるような市民主体のプロジェクトの展開を、横浜市は応援していきます。

今後、次のようなイベントの具体化に向けて取り組んでいきますが、これ以外にも多くの市民とともに楽しめるような、また、地域を盛り上げていくようなイベントや記念事業を創っていく活動を支援していきます。

<提案イベント>

- ・「ストリート・ライブ大会2009(仮称)」の開催支援
ストリート・アーティストが市内全域のストリートを会場として、同時にライブを展開する「ストリート・ライブ大会2009(仮称)」の開催を支援します。
- ・国際トライアスロン大会などのスポーツ大会の開催支援
横浜の港の歴史を体感できる地区を会場に、トライアスロンなどの国際的なスポーツ大会を企画し、市民レベルの交流や集客が図れるよう開催を支援します。
- ・「障害者スポーツ・文化交流祭典(仮称)」の開催
障害者と健常者が一緒に楽しめる「障害者スポーツ・文化大会(仮称)」の開催を支援します。
- ・「市民みんながカメラマン・フォトコンテスト(仮称)」の開催
市民誰もが気軽に参加でき、楽しめる、デジタルカメラを使用したフォトコンテストを開催します。



撮影：森日出夫



撮影：清水一

《横浜の自然や環境を次世代に引き継いでいく活動》

「150周年の森(仮称)」の整備

横浜市では、急速な市街化により緑被率が市域の全面積の約3割まで減少しています。米軍施設跡地などを活用した「150周年の森(仮称)」の整備や市内全域で150万本の植樹を行い、次世代に貴重な財産として引き継ぎます。



「市民イベント150(仮称)」の展開

市民が主役となって「はまっ子」のパワーを内外にぐいぐいと発信していくために、2009年には市内のあちこちで、港や歴史、音楽など多岐にわたる市民主体のイベント・プロジェクト「市民イベント150(仮称)」の展開を目標に、支援を進めます。

そのために、150周年を自らの手で楽しみたい人が誰でも参加でき、創りあげる、様々な「市民イベント」の展開を応援する仕組み「イベント創造プラットフォーム」の充実などを図ります。

What's イベント創造プラットフォーム？

「イベント創造プラットフォーム」とは、「開港150周年を祝いたい、盛り上げたい、応援したい」「何か役に立つことをやってみたい」など、そんな市民の皆様が自由に参加でき、また、個人や市民団体の企画したイベントと応援する企業をコーディネートする機能も持っています。
詳しくは「GO!GO!150ペリーの真(www.kaikou150.jp)」サイトをご覧ください。

そして、市民の企画したイベントを応援する仕組み「イベント創造プラットフォーム」をどんどん活用していただき、多くの市民が参加できるイベントを皆様の手で創り出してください。

地域の魅力を高め、愛着を深める取り組み

開港150周年・市政120周年を契機に、それぞれの地域ならではの個性的で元気があふれるイベントや記念事業を、区と区民の協働で展開し、地域の魅力を高め、愛着を深めるようにしていきます。

<提案イベント(すべて仮称)>

- ・オンリーワン名産物づくり
- ・オンリーワン事業
- ・横浜自然・環境再発見イベント
- ・横浜線開通100周年記念イベント
- ・東海道再発見ウォーク

これらのイベントは、例示的な提案です。ここにはないものも含め、今後、各区で具体化していきます。すでに、2006年から、プレイベントの開催を予定している区もあります。



次世代育成・人材育成プロジェクト

横浜の将来を担う、国際性を持った人材、科学技術の振興や産業界の発展を導く人材を育てていく一方、地域の大切な人材である元気な高齢者の活躍などを支援していきます。



提供：横浜市立立野小学校

《次世代の国際人育成に向けた取り組みの推進》

世界の子どもたちとの交流をととした国際理解の推進

開港150周年に向けて様々な国際会議やコンベンションなどの誘致活動の強化に伴い、横浜での開催件数も増えていきます。こうした機会を活かし、世界中の子どもたちが意見を交換しあう場を設けるなど、子どもたちの交流をととした国際理解を進めます。

市民レベルの国際交流の推進

2008年サミットや2009年シティネット大会開催などを通じて、国際協力を目的に活動しているNPOと海外のNGOとのネットワークづくりや協働に向けた、国際交流の場づくりの支援を進めるほか、市内に多数在住している外国人と協働して、いっそうの相互理解を深めるための国際交流イベントの開催を支援します。

小中学校の語学教育の充実

地域特性を活かした語学教育戦略を進めるために、国語教育を充実するとともに、小学校からの一貫した英語教育を推進(2009年度までに全小学校で導入予定)、国際都市横浜の未来を担う人材を育成します。

《元気な横浜を創造する人材育成に向けた取り組みの推進》

科学技術高等学校(仮称)の整備

科学技術先端都市形成の一翼を担い、産業界や大学との連携による人づくりを進めるとともに、小・中・高・大を貫く教育改革のパイオニアを目指す科学技術高等学校(仮称)を開港150周年を迎える2009年4月の開校に向けて整備します。

起業家育成・支援

「横浜創業9つのメリット」のある横浜の優位性を活かし、チャンスあふれるまちとして起業家に対する助成や、事業パートナーとのマッチングなどの支援を充実します。



提供：横浜市立立野小学校



科学技術高等学校(仮称)完成予想図

芸術文化による創造性育成・支援

次代を担う人材の育成のためには、若いうちから芸術文化に親しみながら感性を磨くことが大切です。芸術家を学校に派遣し、直接生徒に指導するプログラムを充実させるほか、横浜から芸術文化を発信するための人材を育てる環境づくりに取り組みます。

《地域人材の活動支援の推進》

高齢者による地域での福祉活動の展開

明るく活力ある高齢社会を実現するため、元気な高齢者が他の世代とともに地域の中で自らの経験と知識を活かして、福祉サービスの担い手として活躍できるまちづくりを進めます。

<元気な高齢者の福祉活動例>

- ・福祉事業の起業
- ・社会福祉施設などでのボランティア活動
- ・移動サービスや配食サービスなどの担い手
- ・高齢者の話し相手や身の回りの世話
- ・NPOやボランティアグループの運営や管理への参画
- ・若い子育て世帯へのアドバイス
- ・災害発生時の要援護者支援の担い手 ほか

ここでは、現時点で具体化されているものや、具体化に向けた検討を行っているものを掲載しました。今後、2009年の開港150周年に向けて、「ひと」を大事にするメニューを、もっとたくさん増やしていく予定です。



祝祭 「横浜開港“ハッピーバースデー”プロジェクト

開港150年を記念して、先人の業績や歴史を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて、横浜全体がお祭りムードあふれるような、記念式典や記念イベントを多くの市民や企業とともに開催することを提案します。

各イベントの具体的なイメージは、今後作成する「実施計画」の中で、発表する予定です。

《開港150周年記念式典》

概要：開港150周年を市民全体で祝い、横浜の礎を築いた先人の業績への感謝と新たな横浜の力を『はまっ子ならではのメッセージ』として世界や未来に向けて発信することを目的とした記念式典を開催します。

- <日 時> 2009(平成21)年6月2日(火)
- <会 場> パシフィコ横浜・国立大ホール、展示ホール、臨港パーク ほか



(横浜市中央図書館所蔵)

<開港100年祭では・・・>
1958年(昭和33年)、横浜公園平和球場(現在:横浜スタジアム)を会場として、皇太子殿下(現:天皇陛下)をお招きして、盛大に開港100年祭が行われました。式典に続いて、美空ひばりさんや当時のスターによる歌謡祭が行われました。

《開港150周年記念イベント》

ベイサイドステージ(臨港部)

- <開催期間> 2009年4月～9月
- <テ ー マ> 「港」と「歴史」
- <会 場> みなとみらい地区、日本大通り、大さん橋・象の鼻地区、山下公園などの臨港エリア
- <内 容>

開港150周年を記念して、横浜らしい景観や歴史を活かしながら、横浜の臨港部全体がテーマパークとなり、国内外から多くのお客様を招き、エリア全体がお祭りムードあふれるような記念イベントを開催します。

市民に馴染みのある大道芸などのイベントに加えて、次のような新たなイベントを企画中です。

- ・メルボルン、上海、バンクーバーといった姉妹港・友好港などをはじめ、世界有数の港町の食・ファッション・文化などを、横浜で体感できるような「国際交流イベント」
- ・開港以来の横浜の歴史を楽しみながら学べる「横浜ヒストリーイベント」
- ・日本大通りが花やアートであふれる「インフィオラータ横浜2009」
- ・市内の美術館・資料館による「開港150周年特別展」
- ・「文化芸術・創造都市」をめざす横浜にふさわしい「音楽・アート 映像文化系イベント」 など

ヒルサイドステージ(丘側)

- <開催期間> 2009年6月～8月
- <テ ー マ> 「自然・環境」「地域」「共生」「市民との協働による制作・運営」
- <会 場> ズーラシア未整備地区(アフリカサバンナ予定ゾーン) など
- <内 容>

市民による環境保全活動の紹介や植樹などの活動の実践、横浜在来の動植物や昆虫などの紹介、自然体験 など
地域に残る歴史・文化の紹介、また、各区の個性アピールイベント など

なお、企画から準備、運営まで市民のみなさんと行政のコラボレーションによって進めます。

これらのイベントと、「市民力・地域力発揮プロジェクト」から生まれてくる市民イベントや、各区イベント、大道芸などの横浜を代表するような集客イベントなどと一体的に連携しながら、市内全域を盛り上げていくとともに、その盛り上がりのパワーを国内外に発信していきます。



ベイサイドステージ イメージイラスト



ヒルサイドステージ イメージイラスト

開港150周年に向けて 国際的な発信力を高めていくための 都市戦略の取り組み

開港以来、横浜は、我が国の情報発信の窓口として世界と結ばれた都市であり、様々な外国文化を取り入れ、日本の近代化を進める国際港都として発展してきました。今後も、進取の気風と開放性に富んだ市民性を最大限に活かしつつ、国際協力や環境保全など、横浜の先進的な取り組みを踏まえた特色ある国際コンベンション開催を通じて、横浜を世界に発信していきます。



2008年主要国首脳会議(サミット)の誘致

国など関係方面に対して、開港都市サミットの開催意義や横浜の優位性を訴えていきます。

同じ開港都市である新潟と連携し、「首脳会合は横浜で」「閣僚会合は新潟で」をキャッチフレーズにした誘致実現をめざします。

1854年 日米和親条約調印

1858年 米、蘭、露、英、仏と修好通商条約(安政の5カ国条約)締結 横浜・新潟・函館・神戸・長崎の開港が定められた。

そして、

1859年 横浜開港

開港と同時に諸外国との交流が始まり、多くの人・文化・技術が導入され、日本全国へ広がっていきました。近代日本の礎を創り出した街、横浜は「日本近代化の原点の地」です。

開港から150年目にあたる2008年に「日本近代化の原点の地」である横浜・新潟でサミットを開催することは、日本の近代化の意味を日本全体で共有し、振り返る絶好の機会となります。また、主要国が再び横浜・新潟に集まることによって、新たな国際関係を構築する契機となる点でも大きな意義があります。

2008年 開港都市サミット

それは日本全体にとって、さらに世界にとって意義ある開催です。

近代日本150年の節目

「開港の地」横浜・新潟で
サミット(首脳会合・閣僚会合)を!



ペリー提督横浜上陸(横浜開港資料館所蔵)



横浜波止場ヨリ海岸通異人館之真図(横浜開港資料館所蔵)

開港5都市市長会議の開催

開港150周年イベントとして位置づけ、今後、開催に向けて、各都市と調整を進めます。

《趣旨》

2008(平成20)年は、1858年、神奈川(横浜)・新潟・函館・兵庫(神戸)・長崎の開港が定められた日米修好通商条約ほか安政の5カ国条約調印から150年にあたります。

調印の翌年、1859年以降の開港によって、様々な海外文化が導入され、日本全国に広がりました。横浜・新潟・函館・神戸・長崎の5都市は、開国・開港の地だけでなく、「日本近代化の原点の地」と言えます。

そこで、日米修好通商条約調印から150年を根拠に、新潟・函館・神戸・長崎の各市市長が横浜に集まる「開港5都市市長会議」を開催し、日本の開港都市に対する認識をいっそう高める機会とします。

《主な内容》

開港都市が今後歩むべき方向性等に関する「5都市市長共同アピール」を発表

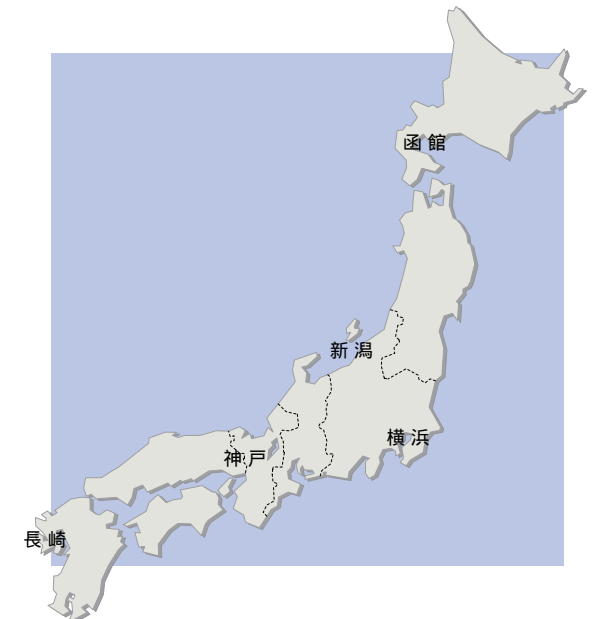
《時期》

日米修好通商条約調印日(旧暦6月19日)を第一候補に6月中

《同時開催イベント》

各都市・港のパネル展(過去・現在)

各都市観光情報・物産展など



特色ある国際コンベンションの誘致

2002年のFIFAワールドカップ™決勝戦などの開催実績、国際機関の集積、パシフィコ横浜をはじめとする優れたコンベンション機能などをアピールして誘致実現をめざします。

横浜開催決定！世界卓球選手権大会
(2009年4月28日～5月5日)

市内の主な国際機関

国際熱帯木材機関(ITTO)

アジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)

国際連合食糧農業機関日本事務所(FAO)

国際連合世界食糧計画日本事務所(WFP)

国際連合大学高等研究所(UNU - IAS)

今後誘致を検討する主な国際コンベンションの分野

国際協力・貢献分野

環境創造・保全分野

文化創造分野

IT・バイオ等産業分野 ほか



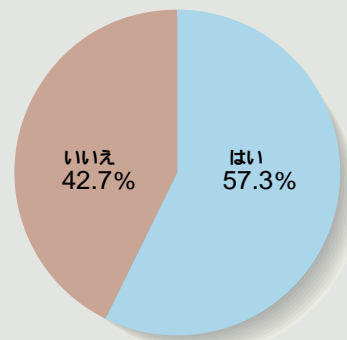
お寄せいただいた市民意見

平成18年1月6日に発表した、「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画(仮称)中間とりまとめ」では、平成18年1月20日から3月20日までの60日間、市民の皆様からこの基本計画に対するご意見や、記念イベントに対するアイデアを募集いたしました。その結果、多くの方からこの基本計画に対するご意見をいただきました。ありがとうございました。ここにその意見の一部をご紹介します。

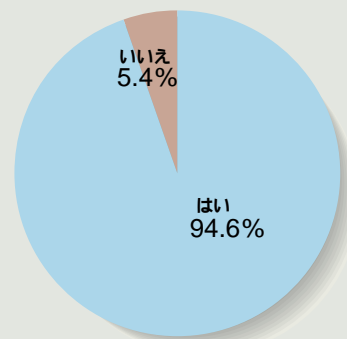
また、記念イベントのアイデアについては、今後の実施計画策定の検討の中で参考とさせていただきます。

- 応募総数 7,510人
 意見・アイデア総数 22,198件
 募集方法
- ・基本計画中間とりまとめリーフレット添付のはがき
 - ・インターネットアンケート
 横浜開港150周年ホームページ(市役所ホームページ)
 ベリーの真(イベント創造プラットホーム運営準備会ホームページ)
 - ・FMヨコハマ開港150周年特別番組でのアンケート など

問1 2009年に横浜が開港150周年を迎えることをご存知でしたか？



問2 開港150周年記念イベントに参加、観覧したいですか？



お寄せいただいた市民意見の紹介

夜、船を大さん橋のあたりにたくさん集め、MM21地区の夜景とのコラボレーション(昔ながらの港と、近代都市の象徴とも言えるみなとみらいを一度に見ることで、横浜という街を印象的にあらわすことができると思います。)

港をきれいにする(清掃)イベントはいかがでしょう。湾内・埠頭・棧橋などゴミを拾いながらあらためて横浜の港の美しさを発見できたら良いと思います。

横浜開港150イベントソングで世界に発信。市民から歌詞を募集し、横浜育ちのプロに作曲を依頼、市民からイベントソングを歌って欲しい歌手も募集(日本に限らず外国の歌手含めて)、歌手を招待して開港150周年イベントショーを開催。
 横浜開港マスコット&Tシャツのデザインを募集、広くPRして多くの市民に購入してもらい、この資金を開港イベントに使用してもらう。

横浜を舞台にした映画を制作し、大勢が入れる会場で試写会をする。また、映画の内容を試写会とシンクロさせ映画のクライマックスを実際の試写会会場を利用し撮影する。

150年前の開港当時の横浜の様子再現。
 イメージ：時代劇のセットのような施設(テーマパーク)で、当時の服装をした人達が歩いていたり、お店を開いたりして、タイムスリップしたような感じを味わえたら面白いです。

横浜ベイスターズ、横浜Fマリノス、横浜FCの選手を呼んでイベントを盛り上げてほしいです。

F1の誘致をしてほしいです。都会の人だとあの鼓動感を味わうことができないので是非やってください。モノコミたいになれば外国の方もたくさんあふれる『国際的な横浜』になると思います。

新しいシンボリックな物をつくるのも一案ですが、150年間積み上げてきたものを活かし、ゆっくりと時間が流れるようなまちづくりを思い、横浜は心が豊かになれる、そんな風に住み人も、来た人も想えるような街と町をつくってください。できるだけ歩道を広くして、ゆっくりなリズムで歩けるように通りの風影の中に居るような心優しい道を作ってください。

メモリアルパーク(スペース)などの整備を行い、記念日を刻印した記念レンガなどを敷く。公園のクリーン化にもつながると思います。

環境保全のためのイベント 緑化推進、植樹 小中学生によるゴミ追放作戦

観光客をはじめ、横浜を訪れる方を市民とともに歓迎し、市を挙げて祝うものにするのが理想と考えます。案としては関係地域だけで従前の方法から、記念イベント期間中を通年として、18区をリレー形式でつなぎ、各区の特色に触れ、再発見できるものにしてはいかがでしょうか？市民・区民はもとより来訪者も、今までに知らなかった区の魅力に触れ合うことができ、節目の年のイベントとして、記憶に残るものになると考えます。また効果として、今後の集客力の良い材料となるのではないのでしょうか？

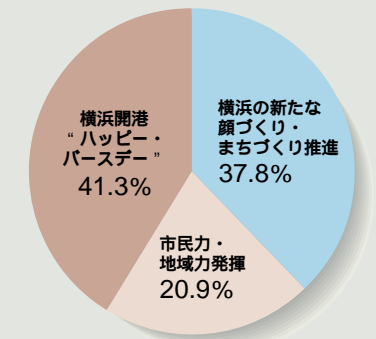
全国の港町(函館、小樽、新潟、神戸、長崎等)との連携イベント

小さい子供からお年寄りまで幅広い年齢層が楽しめるイベントなら、家族みんなで楽しめると思います。横浜らしく都会的で異国情緒たっぷりのイベントにしてほしいです

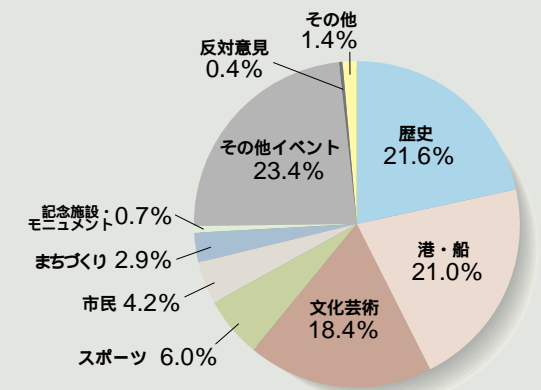
役所主体ではなく、市民が主体のイベントで、税金の無駄遣いにならないようにしてほしい。

山や畑が多い郊外部でも、港周辺でも横浜全体で盛り上がるイベント

問3 3つのプロジェクトのうちどれが一番興味がありますか？



提案・アイデア等自由意見について



- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 歴史 | 横浜の歴史・歴史本の刊行、開港当時を再現 |
| 港・船 | 船のバレード・客船・横浜港周辺(大さん橋、象の鼻、山下公園) |
| 文化芸術 | 音楽、美術、写真、コンサート、ライブ |
| スポーツ | 各種スポーツ大会 |
| 市民 | 市民参加、市民が主役、市民の一体感など |
| まちづくり | 公園、道路、緑地、砂浜、森などの整備 |
| 記念施設・モニュメント | 建物(ホール、博物館)モニュメント、シンボル建設など |
| その他イベント | お祭り、テーマパーク、万博、その他上記に分類されないもの |
| 反対意見 | 不要、税金の無駄遣い |
| その他 | 市政に対する意見等 |

横浜開港 150年の歴史

～横浜発展史～



横浜海岸鉄道蒸気車図（横浜市中央図書館所蔵）



武蔵横浜一覽 Map of Yokohama（横浜市中央図書館所蔵）



神奈川付近ノ市電ト国道ノ復興状況（横浜市中央図書館所蔵）

横浜開港、明治・大正へ

2009(平成21)年に横浜は、1859(安政6)年に横浜が開港してから150周年の年を迎えます。

開港以前の現横浜地域における最大の人口密集地は、東海道の宿場町で、人口5,000人ほどの神奈川宿でした。この神奈川宿の東南約4キロに、後に「横浜市歌(森鷗外作詞)」で「むかし思えばとま屋の煙 ちらりほらりと立てりしところ」とうたわれる、戸数100ほどの半農半漁の寒村、横浜村がありました。

この横浜村で、1854(安政元)年日米和親条約が締結され、その4年後の日米修好通商条約の締結によって神奈川に開港場が置かれ、1859(安政6)年7月1日、横浜は開港しました。

新しく生まれた横浜は、開国日本・新生日本の象徴となり、その魅力にひかれ、内外から多くの人々が集まり、質の高い文化交流が生まれました。

来浜外国人は、新生日本「ヤングジャパン」と呼ばれた。の魅力と熱気にひかれた文化人や貿易商・技術者が多かったのが特色です。彼らは、日本人が世界最先端の技術や思想を展開したいと思うなら、それに進んで協力したいと考える、ボランティア精神のあふれる人々でした。彼らの多くが、交渉条約を導いた幕府と好奇心あふれる庶民の熱意を感じ取り、横浜にヒト・モノ・カネ、そして情報をもたらしました。

日本全国各地から集まった人々は、内外の先進的な産業や文化を積極的に吸収しようとする「進取の気性」に富み、因習にとらわれず、それぞれの出身地の文化を横浜において融合させようとする「開放性」を作り上げていきました。その良循環が、横浜市民気質となっていったのです。

1889(明治22)年、横浜(人口12万人)は市制を施行し、さらに1909(明治42)年には開港50周年を迎えました。その年には、現在でも多くの市民に親しまれている市章や森鷗外作詞の横浜市歌が発表され、市民の寄付によって開港記念横浜会館(現、横浜市開港記念会館)が建設されました。(完成年度は1917(大正6)年)

明治の末期から大正にかけては、市民生活の面においても、伊勢佐木町の芝居観劇やテニス・野球などのスポーツが盛んに行われ、国際都市らしい市民文化を花咲かせました。また、1910(明治43)年の横浜経済協会の設立により、工業誘致が本格的に始められるなど、多くの地元経済人が横浜を発展させたのもこの時代です。

震災・戦争・復興そして日本第2の都市へ

1923(大正12)年9月1日、関東平野南部を震度6の大地震が襲い、横浜は建物の倒壊や火災で壊滅的な被害を受け、横浜経済は崩壊し、多くの外国商館も東京・大阪などへ移転しました。

しかし、その後市民の努力により復興を遂げ、1930(昭和5)年には市内のがれきの埋め立てでできた山下公園が開園、1935(昭和10)年には、くじらを山下公園前の海に泳がせるなどのイベントを中心とした復興記念横浜大博覧会を開催しました。また、横浜港

からの輸出品目としては、生糸貿易が中心であったのが、1942(昭和17)年ごろから機械類、金属製品及び鉄鋼などが貿易の主流となって、現在に引き継がれています。

この間、横浜は市域を拡大し続けました。1939(昭和14)年の大規模な合併によって、現在とほぼ同じ市域になり、1942(昭和17)年には人口100万人を突破しました。

また、時代は金融恐慌、失業者の増大、軍需の拡大と続き、第2次世界大戦へと突入しました。そして、1945(昭和20)年5月29日の横浜大空襲までの度重なる空襲によって、被災人口約40万人、少なくとも約1万人が死亡し、横浜の中心部は焼け野原になりました。

戦争終結とともに、市の市街地面積の約27%、港湾施設は約90%が連合軍に接収され、横浜の復興は他都市に比べ大幅に遅れました。しかし、焦土と化した横浜から市民は立ち上がり、1949(昭和24)年には、野毛や反町で日本貿易博覧会が開催され、横浜市民を元気づけました。一方、横浜港では海外から多くの客船が訪れたり、ハワイや南米などに新天地を求めた移民船が大人橋から出航したり、人の交流も盛んになりました。

また、横浜で生まれた美空ひばりが、日本の戦後の歌謡界へ新たな旋風を巻き起こしたり、ジャズやリズム&ブルース等がアメリカから横浜にいち早く入り、横浜発の文化として日本中へ広がっていきました。

1958(昭和33)年、横浜は開港100年目の年を迎え、開港百年祭が開催されました。これを記念してマリントワーや横浜文化体育館などが建設され、氷川丸が山下公園に係留されました。

日本の高度成長期への突入とともに、横浜の沖への埋め立てが加速化しました。そして昭和40年代の横浜港のコンテナ時代の到来によって、大型港湾化が推進されました。また、1968(昭和43)年には人口200万人に達し、人口の急増に併せて市郊外での団地や宅地造成が行われ、ベッドタウンそしてニュータウンとしての新たな横浜の都市像を形成しました。そして、1978(昭和53)年には、人口は272万人に達し、全国第2位の規模をもつ大都市へと成長しました。

平成から現在、360万都市横浜へ

1989(平成元)年には、市政100周年・開港130周年記念として横浜博覧会が開催され、約1,333万人を動員しました。また、同じく記念事業として、横浜美術館、横浜アリーナ、横浜ベイブリッジなどが建設されました。

21世紀を迎えて、2002(平成14)年6月、ワールドカップ決勝戦が横浜で開催され、その試合の様子が全世界に発信されました。また、同年10月に人口は350万人を超え、現在も人口は増え続けています。

その後も、2004(平成16)年には待望のみなとみらい線が開業するなど、2009年に向け横浜は発展し続けています。

(平成17年6月発行「横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン」から転載)



撮影：森日出夫



撮影：森日出夫

チャンスあふれるまち 横浜の創造に向けて

今回の「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」では、記念事業全体の方向性やフレーム(骨格)を示すとともに、その肉付けとなる事業については、現時点で、取り組みの方針が明確化されているもの、計画されているものを基本に、この計画に掲載しました。

2009年に向け、現在、掲載されているものの具体化が進む一方、今後、横浜市はもとより、多くの主催者によって、記念事業にふさわしい取り組みやイベントなどが新たに計画されてくることが予想されます。したがって記念事業全体は、今後、ますます、増えていき、ボリュームアップしていきますので基本計画もそうした動きに連動していきます。

「基本ビジョン」で打ち出した、「『横浜らしさ・ならでは』へのこだわりと創造」などの5つの契機の実現といった、基本的な考えにふさわしい取り組みや事業、イベントが今後、具体化されれば、記念事業として基本計画に加えていく考えです。

そこで、この基本計画は「成長・発展する計画」として位置付け、必要な更新を行い、その動きを発信し続けていきます。



横浜開港150周年～市政120周年～ 基本計画

2006(平成18)年6月2日発行

横浜市開港150周年・創造都市事業本部
150周年記念事業推進課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

電話045-671-4170 FAX045-663-1928

横浜市広報印刷物登録第180082号 類別・分類B-DK010